

歴史の上にて、著名の事實なり。彼の三名君の一人なる、備前少將の逸事として、湯淺常山が紀談中に記する所、尤も切實と覺ゆれば、左に引き出ぬ。

新太郎様、この竹を裁て枕にせよ、何村の種米はちやうにせよ、何の役は、かやうにせよといふ、御自筆に遊されたる御書の、予が曾祖父に下たされたる數十通、箱一つに有て傳へたり。今は、かやうの事は、郡代も知らざる体なり、衰へたる世のありさまにこそ。

ちやうたる適例は、固より枚擧するに遑あらざれども、大様は、右にて推知すべし。要するに武士道は、決して厚生利用の道と兩立し難きものにあらざり、但前にもいへるが如く、彼の所謂拜金宗とかいへるものゝ説の如くに、財を財其物として愛惜せず、武士の本意を貫くに必要たるが爲めに、愛惜すること。而して是れ武士道の感化を受けたる、日本國民の氣風、萬國に冠絶する所以なるべし。彼の拜金宗のいふ所の如きは、固より一時警世の語としてきくべきも、之を以て、一世を導らんと欲するは、是れぞ、正しく清潔なる日本國民にすゝめて、支那人たれといふに同じ。

稿者曰く、此篇、もご充分に武士道の真相を發揮する都盛にて起稿せしに、下篇を草するに當り、適ま臍充血にかゝり、枕頭筆を執り、忽ち完結す、恐らくば、龍頭蛇尾の嘲を免れず、幸に諒恕せられよ。

吾人學生の任務

荒木 大藏

人生の目的に就ては、古來種々の説ありて、數千萬人の頭腦を苦ましめ、未だ一定せずと雖、要するに最多數人の最大幸福を増進するに在りと云ふに歸するが如し。今此説に依れば、可成丈世界總人民を

指すが如しと雖、人類は如何に開化するも利己的を免れ難きものなれば、到底此世界總人民の爲めに幸福を増進せんが爲めに働くこと、決して出来べからざるものなるゆへ、之には一定の制限あらざるべからず。一定の制限とは何ぞや。國家是れなり。凡そ國家の初めて成立するや、各人の生命身体財産等の安固を保護せ、幸福を得せめんが爲めなり。已に此目的ありて國家は始めて成立せるものなれば、苟くも此目的を妨ぐるものあらば、斷然之を排除せざるべからず。人人利己心を恣にして、國家の利害を顧みざるあらば、國家は其自存の必要上より、斯くの如き行爲を禁じ、若し之に背く者あらば、之に制裁を加へざるべからず。唯國家の進歩幸福を増え若くは之を害せざる限りは、各人は自己の利益の爲めに働くの自由を有するものなり。

國家の起原は人民にありと雖、國家ありて始めて自己あるなり。若し國家なくんば自然の優勝劣敗行はれ、強は弱を凌ぎ、小は大に壓せられ、人々の生命身体財産の安固を望むべからざるや必せり。故に國家の成立確定すれば、之に應じて各人の生命身体財産等の安固益々大となるものなり。則ち國家進歩すれば各人の幸福増加するものなり。而して國家は人民の集合より成るものなれば、人民の働の如何は直に國家の働の如何となる。西人の所謂國家は人民の反映なりと云へるは則ち此理なり。然らば國家を進歩隆盛ならしむる道如何、教育是れなり。教育は開化の基にして、之によりて人民の智識を増し、從て人民の幸福を大ならしむ。世界各國競ふて教育に力を用ひ、特に普通教育ポピュラー・エデュケーション乃至強行教育ネーション制度を施行するは誠に故あるなり。而して教育の方法も時代に由て變遷するは勿論にして、古代には古代の教育あり、今世には今世の教育あり、戰國時代には武事教育専ら行はれ、治世には文事教育専ら行はる。戰國時代には文事教育を奨勵するも何かせん、治世には武事教育のこを施すも其效少

し。腐儒と云ひ、武骨漢と呼ぶも、必竟其時代如何によるのみ。亂世の腐儒も治世に在ては尊重せらるゝことあらん、治世の武骨漢も亂世に處せしめなば殊勳を立ることあらんも知るべからず。然るに治に居て亂を忘れざるは、國家維持の本なり。武事教育は陳暴汗濶に流れ易く、文事教育は優柔不斷に陥り易きは古今の常弊なれば、要は此兩方法を併用するにあるのみ。我國數十年前、浦賀の砲聲に數百年來の長夢を攪破せられ、西洋の事物、一瀉千里の勢を以て、滔々として我國に汎濫し來り、政治法律學術のみらは、剩さへ風俗習慣をも變せんとする者あるに至れり。從て西洋文物の利を蒙りたること多まど雖、又其利に伴へる害を受けたること少しとせず。然れども、僅々二三十年間の短月日を以て、現今の如き長足の進歩を爲したるは、世界各國其比を見ざる所なり。是れ素より我大和民族の精神開明發達に赴く源泉を備ふればなり。自ら取るの性質なくんば、他より與ふるも豈之を取ることを得んや。大詩人となるには天性其特質を備へざるべからず、大國民となるには其要素を有せざるべからず。此に由て之を觀れば、我民族の優等なる知るべきなり。今や社會の發達に伴ひ、教育の制度も殆んど完備の域に達せんとす。率土の濱陬唔の聲を聞かざるなく、僻陬の地瘠瘠の設あらざるなし。是れ聖代の余澤、國人たる者豈感謝せざるを得んや。

己に述べたる如く、國家は人民の集合より成る。人民の教育の進否、尙武の精神、勤勉の多少等は直に其國の特性オモトクサとなり、國家の盛衰全く之に關す。スバルタ人の尙武的氣象ありて、スバルタなる尙武國あり、アセンなる尙文人民ありて、アセンなる尙文國あり、其他の諸國皆然らざるなし。然らば國人共に國に盡すは其本分なり。然るに予が特に吾人學生云々なる題を掲げたるは何故なりやと云ふに、吾人は幸に中等以上の教育を受くる者なり、素より一般人民の比にあらず。其學校を出で社會に立つ

に當りてや、國家有用の材となり、一般人民の標準となり、其率先者となりて、國利民福を増加せざるべからず。國家隆盛の何如掛つて吾人の頭上に在ること、特に深ければなり。吾人の任務重且つ大ならずや。

優勝劣敗は自然の大則、決して動かすべからざるものなり。野蠻時代には人々蒙昧にして道理の何たるを知らず、唯鬪争是れ事とするより、強者は弱者を壓し、酋長を生せり。而して時世の變遷に従ひ、遂に覇者を生じ、王者を生ずるに至れり。是に於てか始めて社會の組織漸く備はり、道徳起り、法律立ち、風俗習慣も亦漸く鄙野を脱して、文明に向くものなり。隨て彼強者大者等が縦に弱者小者等を壓倒する有様、則ち純然たる天然の優勝劣敗は止むに至るも、社會如何に進歩すればとて、世道の開明より生ずる所の優勝劣敗は、到底免るゝに由なきなり。人は生れながらにして賢あり、愚あり、智あり、鈍あり、勇あり、怯あり、百人百色、皆異らざるなま。從て社會に地位を占むるも亦異なるなり。賢き者は人に尊ばれ、愚なる者は人に見捨らるゝは常の道なり。且つ社會の進歩に従ひ、富者は益富み、貧者は愈貧に陥るは、疑ふべからざる事實なり。國際間に於けるも、競争あるは自然にして、強は弱を呑み、大は小を併するは戰國時代なり。然れども國の盛衰興亡は、唯戦争のみに由らざるなり。現今の如き各國交通時代には、平和的鬪争なるもの行はれ、隱然として國の盛衰興亡に大關係を及ぼすこと、毫も實際の戦争に譲らず。實際の戦争は是れ唯社會一時の變象たるに過ぎずして、平和的鬪争の如く永久に續くものにあらず。平和的鬪争とは何ぞや、實業的鬪争則ち經濟的鬪争是れなり。方今他國民と交通貿易するに當り、銳意勉勵以て勝を制するにあらざるよりは、終には他強國の保護國等の名目の下に置かれ、獨立不羈を失はず、んば止まざるべし、埃及の如き其好近例なり。而して世運益進歩す

るに従ひ、他國との交通貿易愈々頻繁となるものなれば、國人たる者、此點に就て、大に留意覺悟せざるべからず。

兵は凶器なり、妄りに之を動かすべからず。然れども、又之を動かさざるべからざる場合あり。妄りに之を動かさば、或は無名の師となり、暴虎の軍となるべし。人と交るに禮あり、謙讓は美德なり。然れども、故なくして忍ぶべからざるの恥を加へられなば、豈に之を報ひずして可ならんや。此氣力なくば、是れ已に常人にあらざるなり、是れ痴にあらざれば呆なり。斯くの如き輩、社會に益なし。國際間も亦成るべく親交するを法とす。然れども、其苟くも他國の爲めに國權を犯され、忍ぶべからざるに至らば、已むを得ず義戰を興さざるべからず。無名の師成功するなく、義軍の向ふ所、士氣勃發、破竹の勢を以て進めば、堅城鐵艦破碎せざるなし。見よ亞米利加の獨立戰爭を、又獨逸征佛戰爭を、古今の歴史炳として日を見るが如し。我が支那と兵を交ゆるに至りしも、亦已むを得ざるに出づ。義軍一度動くや、豚兵潰走せざるなし。黃海の海戰は日清兩國勝敗の分るゝ所なり。激戰數時の後、彼の艦隊は脆くも其半を撃沈められ、蒼惶として戰場を逃走せるにあらずや。彼の軍艦の堅、砲銃の鋭、我に及ばざりしが爲めか、抑も亦艦數相異りたるに由るか。否々決して然るに非るなり、彼れ我に優るあるも劣らざりしなり。是れ器械精良なるも、之を指揮運轉する適當の人あらずんば、其功を奏する少きを證するに足るなり。蓋し支那は革命の國にして、其朝を代ふるの多き其例を見ず。故に其民の君を見る、甚だ冷淡にして、唯私利を貪り、國家の利害を顧みる情甚薄し。然るに、我國人は數千年來、萬世一系の天子を戴き、忠君愛國の心に富むこと、天下に比なく、殉國忠死を以て最大名譽となすものなり。況んや今回征清の擧の如き、膺懲の大詔を奉じ、其無禮傲慢を討するに於てをや。王師の向ふ處、

勝たざるなきは豈偶然ならんや。其和成るや、我れに償ふに億萬の金と廣大の地とを以てせり。是に於てか、我交戦の目的を達し、其大義名分明瞭なるものあれば、誰れか之に對して嘴を容るゝを得んや。我が帝國の勇武、海陸の精銳は歐米諸國をして舌を捲いて敬憚し、我國の長足の進歩を爲したると、國力の大きるとに驚かしめ、後へに堂曙たらしめれば、國人たる者、雙手を舉げて祝せざるべけんや。而して已に世界の一強國となりたる以上は、我國の任務更に層一層の重きを加ふるものなれば、從て吾人の任務亦數倍の多きを加へたりと言はざるべからず。我國の前途是れより多事多望なり。Power is Justice とは未開時代の言葉なれども、尙ほ現今開明時代を支配するを見れば、吾人誠心の國民、豈に慨然たらざるを得んや。四海兄弟、博愛同仁とは何等の謔語ぞ。宇宙主義とは如何なる妄想論者の空言よ。年々數百万圓の金を擲ち乍ら宗教を以て他國民を感化せんと欲せば何ぞ己れが國より始めざる。己れの國には罪人少きや、貧民の割合少きや、社會黨虛無黨等は何が故に社會の秩序を擾亂するや。彼等の眞意問はずして明なり。凡そ他と競争するに當りて、一の敵あれば我の覺悟も之に應じ、二三の相手あらば我も亦之に應じて謹慎忍耐勉強の度を加へざるべからず。況んや方今の如き、世界各國を相手となし、實業に、工藝に、學術に、製造に、航海に、教育に、軍備に、外交に、凡ての點に於て、競争せざるべからざる時に於てをや。我國は新に台灣の一嶋を得たるも、尙未だ版圖大なりと言ふべからず、人口衆多と云ふべからず。將來爲さるべからざる大小事業、頻々雜出するに至るは、期して待つべきなり。吾人學生たる者、豈大覺悟を要するの時ならずや。

我國は四面環海、亞米二大州の要路に當るものなれば、將來交通上、貿易上の中心となるや必せり。西比利亞の大鐵道將さに成らんとし、パナマの運河開鑿も亦數年を出でざらんとす。國人たる者、從來

の小天地に肩促たらずして、大に進取の方針を取らざるべからず。進取的ならざれば、逡巡躊躇して取るべきの利あるも取るを得ず、避くべきの害をも避くべからざるに至る。斯くの如くんば、此優劣取の時代に處して、安んぞ能く其頭角を顯はすを得んや。ヴァスコデガマの進取的氣象ありて、印度航海も出來たるなれ。コロンバスの毅然たる精神ありてこそ、水夫の脅嚇にも掛はらず、千辛萬苦を忍んで新大陸を發見したるなれ。狐疑すれば一も取らず、二も取らず、二兎を追ふものは一兎を得ずとの譬の如けん。且つ現今未だ東洋に在て、勢力平衡上より、豺狼飽くなき諸強國をして、其志を得せしめずと雖、彼等互に相瞻目覲視し、少しの間隙あらば兵禍起らんとする狀勢あり。實に當時の天下たる、平和的外裝の裏に戰亂的禍機を隱くせるものといふべし。凡そ事の起否は豫めすること能はざるも、之れが備を爲すは智者の事なり。盜を捕へて繩綯ふも何かせん。素養の必要なる、知るべきなり。素養あらば熟練を増え、從て事に當て狼狽するなく、能く成效するものなり。人各能あり、不能あり。職に貴賤の別を立るは俗眼者の考のこ。要唯己れの長ずる所を盡して、己れを利し、世を益するにあるのみ。唯一身の私利安樂を是れ事とし、國家の利害休戚を顧みざるは、是れ國家の蠹賊のみ。人生永きが如しと雖、百年を出でじ。之を悠久なる時間の無限なるに比すれば、豈啻に滄海の一粟のこならんや。善く各自の勢力を用ひ效績を大にするを務むべきなり。今後の社會爲すべき事業多し。從て種々の人を要するは勿論なり。農に志ある者は農たれ、工に意ある者は工業者たれ、其他政治家たれ、經濟學者たれ、企業家たれ、其事業の如何は各人の嗜好長所に任すべきなり。今や戰勝の結果として、我國は一躍して歐米諸強國と比肩駢黈して、世界の競争場裡に馳驅せんとするに當り、將來我國の鼓舞者たる吾人學生たる者、善く眼界を廣くして世界の大勢を知り、最大決心、最大覺悟を以て勉強せ

ざるべからず。乞ふ讀者文の拙劣を問はず、唯微意の存する所を採らば、豈嘗に生の幸福、のこならんや。

雜 録

想像力を用ひて殺人を行ひ得るや

教授 羽生慶三郎

想像は意志の作用に過ぎずと雖も、其身体と關係を有するの至大なることは、實に驚くべきものあり。心配する人は瘠せ、氣樂なる人は肥へると云ふことは、通俗世人の唱ふる所なり。然れども、心配の結果として直接に死を致す如きは、未だ世人の思はざる所なるべし、或宗派の教旨に於ては、其信徒が病に罹ることあるも、醫師に依頼して治療せしむるを許さず、只神を拜し、神水を飲み、神符を戴くを以て治愈すべしと爲せり、而して、愚民も此方法に由りて其病を治するもの少なからざる所以は、蓋し想像の力に由るものと云ふべし。又病人が醫師若しくは藥劑を信用するの多少に由りて、其病の治否に大關係を有することは、人の信する所なるべし、此の如く、想像の爲めに病患を生じ、若しくは之れを治するの例は、頗ぶる多しと雖も、想像のみの爲めに、全く生命を失ひ、若しくは失はしめたるの例は、甚だ稀に見る所なり。而して若し此の如く想像を以て人の生命を失はしむるを得るとすれば、兇器若しくは毒藥等の如き有形的殺人の方法の外に、別に無形的殺人の方法を發見せるものと云ふべし。而して此の如き殺人の方法は、自殺と言ふべきや、他殺と言ふべきや、又此の如き想像を起さしめたる者は、刑法上責任あるや否や等の問題を生すべし。今自己の想像に由りて死に至りたる二